

NII 学術情報基盤フォーラム 2021

AXIES-RDM部会との合同トラック (7/7)

名古屋大学における GakuNin RDM の導入の経緯と今後の課題

松原 茂樹 (名古屋大学情報連携推進本部)

GakuNin RDM をどのように受け入れた (る) か : 大学からの報告

名古屋大学における研究データ基盤整備のこれまで

	名古屋大学		東海国立大学機構・準備	
	AXIES (RDM部会)	NII (GakuNin RDM)		情報連携推進本部
以前	<ul style="list-style-type: none"> 部会設置 	<ul style="list-style-type: none"> 機能評価試験 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回機能評価試験参加 	<ul style="list-style-type: none"> 研究資料10年保存規程
2018年度		<ul style="list-style-type: none"> 実証実験開始 	<ul style="list-style-type: none"> RDMプロジェクト開始 <ul style="list-style-type: none"> 講演会(込山氏(NII)) 講演会(尾城氏(NII)) NIIミーティング@名古屋 実証実験参加 (クローズ) RDM用ストレージ導入 	
2019年度	<ul style="list-style-type: none"> 研究データ管理に関する提言 研究データ管理に関するアンケート雛形 		<ul style="list-style-type: none"> 学内アンケート実施 <ul style="list-style-type: none"> NIIオープンフォーラム'19 オープン実証実験開始 <ul style="list-style-type: none"> 学内利用者手引き公開 	<ul style="list-style-type: none"> 総長からRDM推進を指示 研究データ基盤整備部会発足 <ul style="list-style-type: none"> 研究データポリシー素案 レクチャー(山地氏(NII))
2020年度	<ul style="list-style-type: none"> JPCOARとの合同ワークショップ 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験終了 先行利用開始 本格運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> 先行利用サービスに移行 学内ストレージとの統合 	<ul style="list-style-type: none"> 学術データポリシー原案 教育研究評議会 <ul style="list-style-type: none"> 学術データポリシー策定 学術データ基盤整備WG発足
2021	<ul style="list-style-type: none"> 研究データポリシー作成のためのガイドライン 			<ul style="list-style-type: none"> 学術データ基盤整備WG発足 (情報基盤/図書館/研究協力/学術・産学連携/IR/教育推進/附属病院)

導入の経緯（過去の報告から）

- 研究データ管理の **4** 要素



[NII 学術情報基盤オープンフォーラム \(2019/5/29\)](#)
～ 学術機関における研究データ管理の進め方～

「名古屋大学における研究データ管理体制の整備」
(松原茂樹, 揚野敏光, 吉田千穂) より

- 名古屋大学における研究データ管理に関するこれまでの取り組み



組織

情報連携統括本部、附属図書館、URA による
研究データマネジメントプロジェクトを発足



基盤

GakuNin RDM を試用。
実証実験に向け、クラウドストレージを導入



人材

研究データ管理に関する公開講演会を
開催し、学内の関係者と考え方を共有



方策

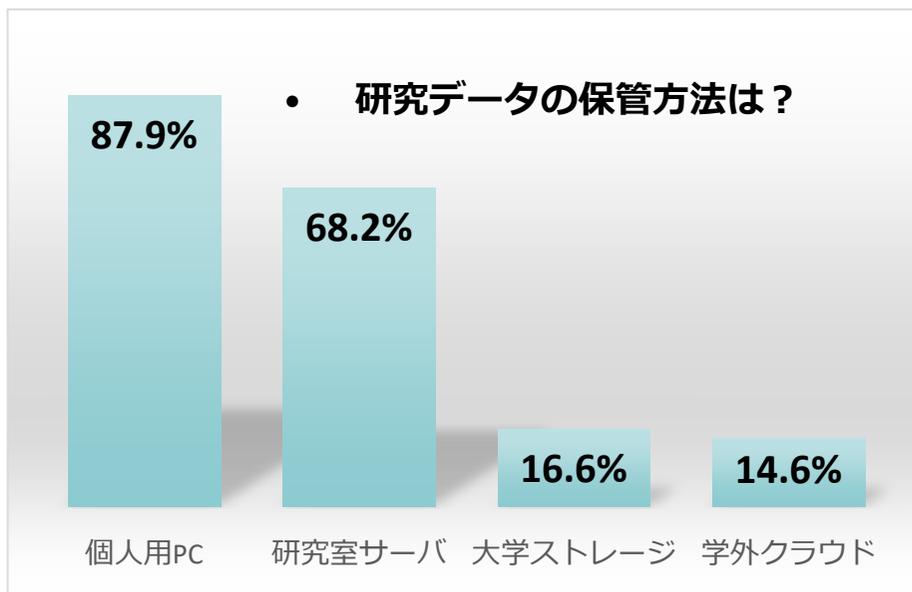
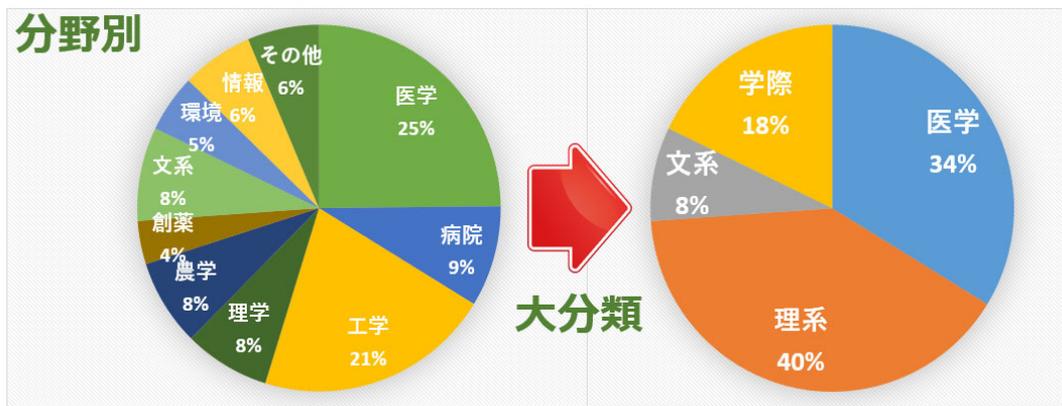
学内アンケートを実施し、研究データ管理
に関する本学の現状とニーズを調査

名古屋大学における研究データ管理（アンケートより）

■ アンケートの回答

□ 対象者：名古屋大学の教員・研究者

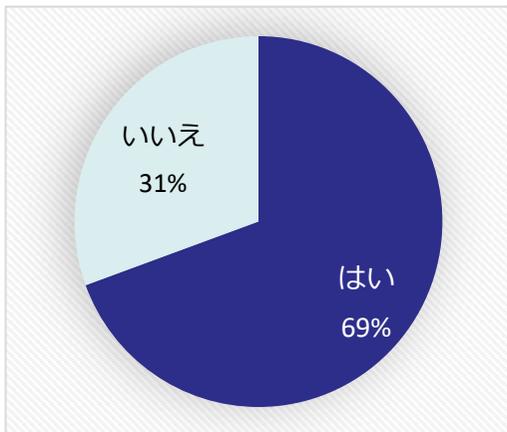
□ 回答者：**157**名



大半が個人/研究室で保管

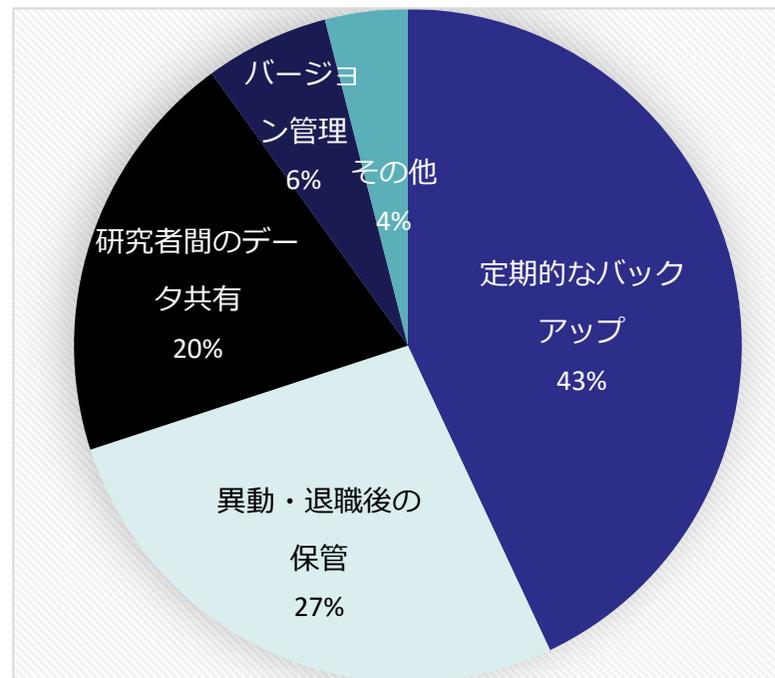
研究データ管理の現状（全体）

- 大学が提供するデータ基盤での保管を希望する？



現状に比して
大学提供の需要が大きい

- 大学が提供するデータ基盤のメリットは？

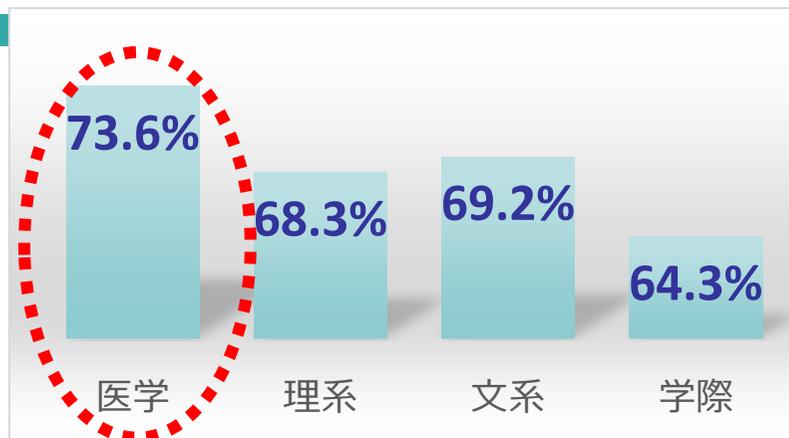


- ◆ 大学による管理
- ◆ 研究者・研究室を超えたデータ共有の動機が大きい

研究データ管理の現状（分野別）

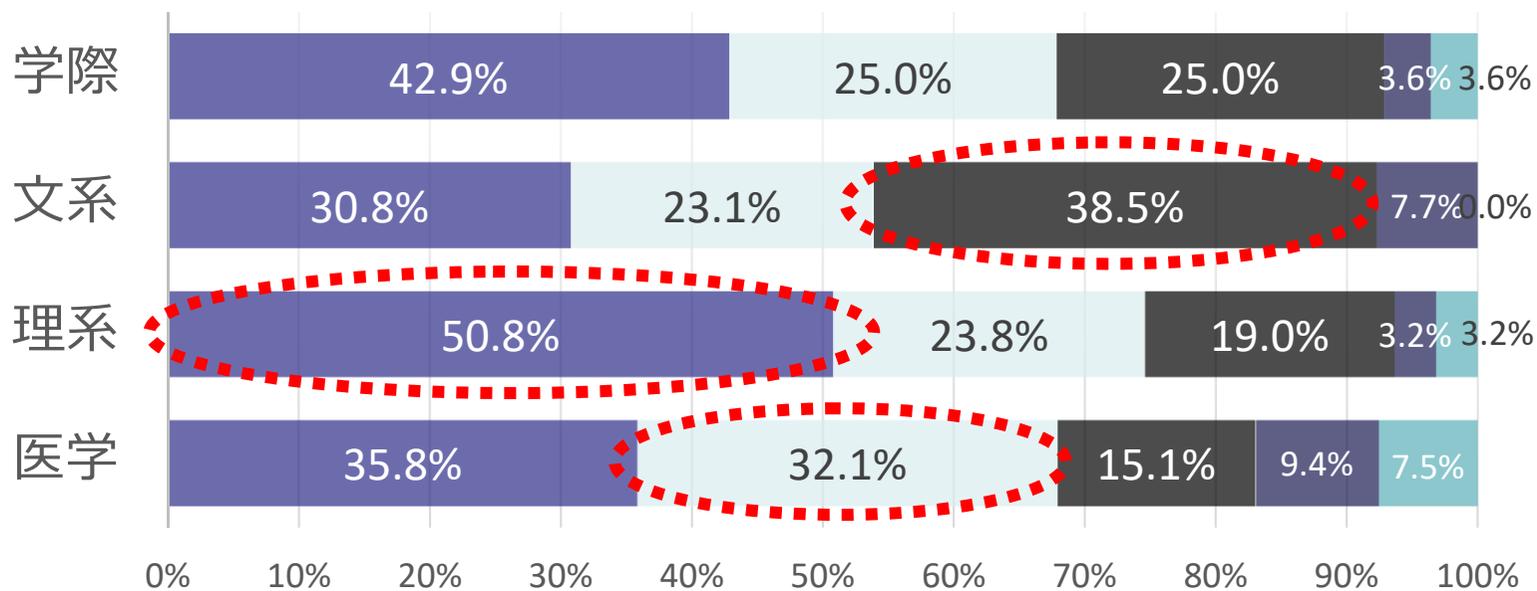
- 大学が提供するデータ基盤での保管を希望する？

分野による需要に違いあり



- 大学が提供するデータ基盤のメリットは？

分野による需要に違いあり



■ バックアップ ■ 異動・退職後の保管 ■ 研究者間の共有 ■ バージョン管理 ■ その他

名古屋大学における GakuNin RDM の導入



- 研究データ管理向け**オンプレクラウドストレージ**を導入
(**国立大学経営改革促進事業**「研究データの大学間相互利用に向けたアカデミッククラウドの構築」)
- GakuNin RDMの**機関ストレージ**として接続

• オープン実証実験

- **期間** : 2020/3 ~ 2020/10
- **対象者** :
 - プロジェクト管理者 (名大の教職員)
 - 利用者 (名大構成員 (教職員 + 学生))
- **ストレージ** :
 - 容量 : **100GB** (名大の教職員限定)



• 先行利用サービスに移行

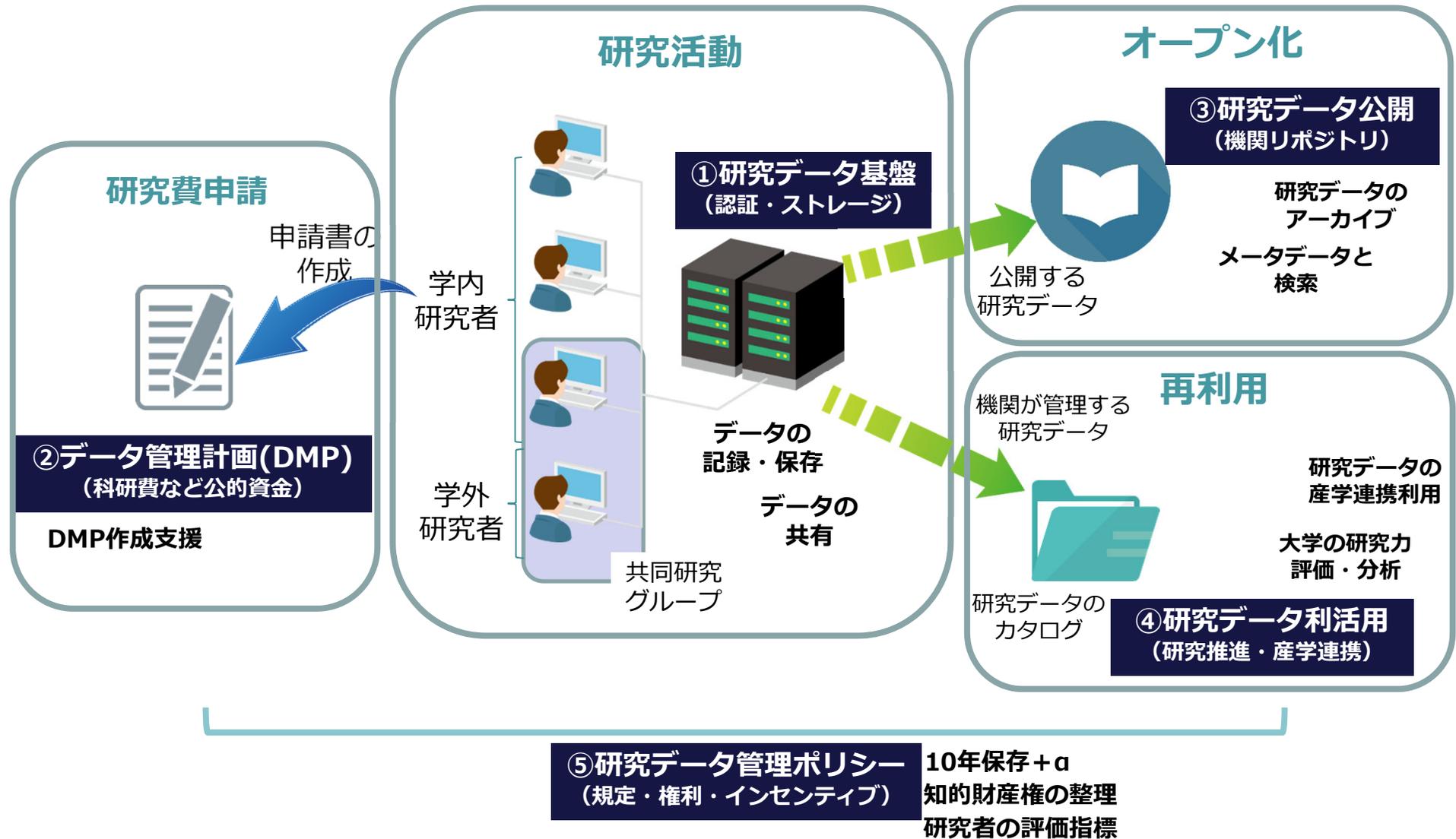
- 2020/10 ~
- 名古屋大学ストレージ NUSSを機関ストレージに

 **GakuNin RDM**

NUSS
Nagoya University Storage Service

名古屋大学における研究データ管理

データを活用する新しい名古屋大学を創る



ポリシー策定の過程

2020.01) 素案の作成【研究データ基盤整備部会】

- 「**名古屋大学学術憲章**」を出発点に

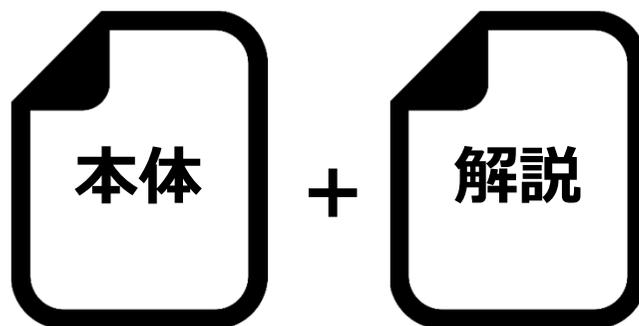
2020.07) 原案の作成【研究データ基盤整備部会】

- 「研究データポリシー」から
「**学術データポリシー**」に

学術データ

研究データ

教育コンテンツ



2020.10.20) 最終案の承認【教育研究評議会】

<http://www.icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/>



ポリシーの概要

- 「**名古屋大学 学術データポリシー**」の骨子

<http://www.icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/>

管理の
主体

学術データの管理・公開・利活用の方法は、
収集・生成した者が主体的に決定できる

構成員
の責務

名古屋大学の構成員は、
収集・生成した学術データを適切に扱う

大学の
責務

名古屋大学は、構成員による学術データの
管理・公開・利活用の活動を支援する

学術データポリシー「解説」

5. (大学の責務)

※ 名古屋大学が大学構成員に提供する支援環境として以下が考えられる。

1. 学術データを管理するための**データプラットフォーム**を提供する。
2. **研究データ管理計画**等、学術データの管理に関する計画や行動を支援する。
3. 学術データを公開するための**データリポジトリ**を提供する。
4. 公開する学術データの**メタデータ作成**を支援する。
5. 学術データの**共同研究**や**産学連携**、**アウトリーチ**、**授業**等での利活用を支援する。
6. 学術データに関する**契約**、**法務**等を支援する。
7. 学術データ管理の**取組みを奨励**し、また**実績を評価**する。
8. 学術データの管理、公開、利活用に関わる**規程**・**実施要項**等を定める。
9. 学術データの管理、公開、利活用に関して**啓発**する。

まとめ

- **どのように受け入れたか**

- **大学間認証**

- 東海国立大学機構の大学間研究基盤
- 学外との共同研究推進のための認証基盤

- **提供者との対話**

- 導入・運用上の問題の共有と解決
- 大学で推進するための課題を共有

- **運用・普及に向けた課題**

- **参加機関の増加**

- 企業等との共同研究での利用可能性
- 効果的な利用事例とモデルの蓄積と共有

- 大学における**研究データ管理ガイドライン**の整備

- 研究公正を支える基盤として